



乳母めのとの子こ

十編大尾

二京山翁作

新板



43
4450
10



源氏物語五十四帖水滸傳百二十回和漢の妙作と久
 づも一部の末ふらうそりてなすめりともありしうらうを咲花
 をと多ふあま色香うそり降雪も解るとは風情の
 待甲斐あり嬉しきもきぬくの別は六ひひとあまの
 ちも事の終りありしうらうそりてなすめりともありしうらうを咲花
 の州子地見たりは加えて十年はとあたる十編の長奉公
 一部團圓の末ふありて筆のよきもたなく長く長あまを
 是あうは内とありを結ぬ所もあまことあゆまやてあ
 大尾の筆と拭ひぬ

嘉永六同仲秋上梓



山東庵京山

八十五歳



鎌倉 松葉谷
 老女 龜の井
 萬壽院 春國 千歳判官
 德若子 取替

余編裊史案其
 繁假作画随意
 下筆無一構稿
 不過片束作蚕
 固是兒曹之玩
 冊以驅眠為分
 耳

筆下
 拙咏
 風



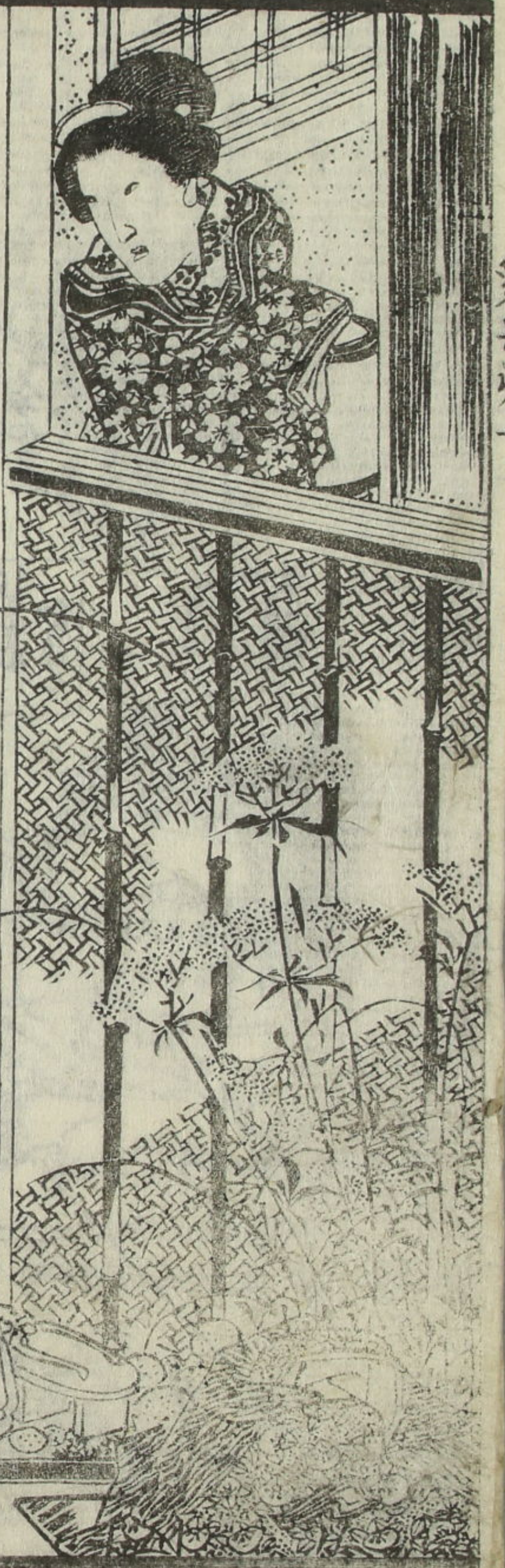
仁太郎
 小娘
 八娘
 春



刀屋娘
 花
 刀屋代半七
 時あま月
 虎の尾ま
 毛はまそ
 まま
 たもと

たのしみは秋

みづのよぶるとやて
 ようらぬわづらをあらとて
 あらけの西念ねと
 やまののかきうくと九八ふま
 たるゆもあつげあふま
 こんふひのふるとなつれく
 とろあつてあふまらけあ
 のかきとあつてあふま



仁孝御宇の秋

●仁孝御宇の秋
 りんごのよぶるとやて
 ようらぬわづらをあらとて
 あらけの西念ねと
 やまののかきうくと九八ふま
 たるゆもあつげあふま
 こんふひのふるとなつれく
 とろあつてあふまらけあ
 のかきとあつてあふま

① ちうふたの
 りんごのよぶるとやて

二張

かそ仁孝御宇の秋
 おとあつたのんがむまの
 下女つとあつてあふま

●仁孝御宇の秋
 りんごのよぶるとやて
 ようらぬわづらをあらとて
 あらけの西念ねと
 やまののかきうくと九八ふま
 たるゆもあつげあふま
 こんふひのふるとなつれく
 とろあつてあふまらけあ
 のかきとあつてあふま

② あつてあふま
 りんごのよぶるとやて
 ようらぬわづらをあらとて
 あらけの西念ねと
 やまののかきうくと九八ふま
 たるゆもあつげあふま
 こんふひのふるとなつれく
 とろあつてあふまらけあ
 のかきとあつてあふま







^ 13
4450
10